

意識し合う相互

半透明度を用いた建築設計手法

指導教員 吉松秀樹教授 印

6AEB2221 益田賢一

1 motivation - 失われた匂い・音 -

GDR (Gakumae Design Research) において東海大学前駅付近で感じた街の匂いや音は心地良く、足を止めて観ていたい景色があり、目を閉じて感じたい匂いがあった (fig. 1)。しかし、東京の多くの街が匂い・音を失っている。本計画は失われた街の匂い・音を獲得することを目的とする。



fig.1 東海大学前で感じた匂い・音

2 analysis - 東京の不透明度を分析する -

世界でも有数の都市更新の速さを持つ東京は、都市更新の速さだけでなく、均質化された街が目立つ (fig.2)。不透明な高層のボリュームによって作られる東京は、1枚壁となって都市を空間的にも視覚的にも遮断している (fig.3)。



fig.2 東京の速さ、均質化

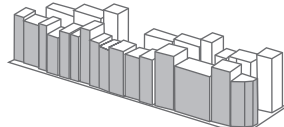


fig.3 不透明な1枚壁で構成される東京

3 modeling - 半透明度の操作 -

東京の多くの街が不透明な1枚壁で匂い・音を遮断している。匂い・音を意識するために半透明度を操作する (fig.4)。不透明では匂い・音を感じることは出来ない。しかし、透明では意識せず通り過ぎてしまう。匂い・音を意識し、感じ取る手段として、半透明な壁を用いる。半透明な壁との距離によって半透明度が変わる、故に、人々が匂い・音を認識するレベルも変化する (fig.5)。



影が写り込む fig.4 ダイアグラム



fig.5 半透明な壁との距離によって異なる半透明度

半透明な壁によって構成されたモデルの中では、人々と匂い・音が互いに干渉し合い、ゆるやかに繋がることが出来る。



4 program - 匂い・音と共存する美術館 -

本計画では私たち人間が失っていたり、忘れかけている匂いや音、心地よさ、温もりを拾い集めてもらうことを目的とした、直島の現代美術館をプログラムとする。本計画で計画されるものは限りなく建築と自然の間のものである。展示されるものもアートと建築の間のようなものを展示し、そこでは人、建築、アート、匂い・音が意識し合う。

5 architecture - 意識し合う相互 -

半透明な壁を建築に落とし込む (fig. 6)。半透明な壁の連続は、不透明だと見えず、透明だと意識しない匂いを意識させる。ゆるやかに繋がる環境、匂い・音を意識させる空間になる (fig.7)。

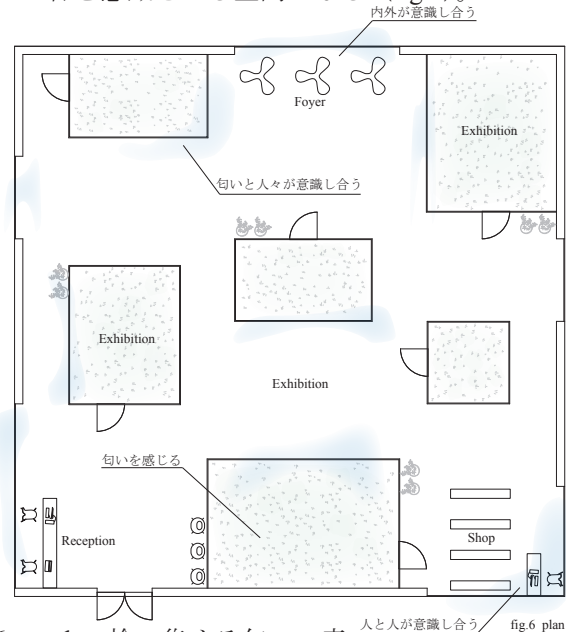


fig.6 plan

6 result - 拾い集める匂い・音 -

本計画は、半透明度を操作し、匂い・音を意識させることで、この空間で人々に見落としていた匂いや音を拾い集めるための建築設計手法として期待することができる。



fig.7 model photo